

能登半島地震

岐阜薬科大の`移動薬局`活躍



患者等に処方された薬の説明をする
薬剤師=石川県珠洲市の正院小で

珠洲の利用者から感謝

能登半島地震で大きな被害が出ている石川県珠洲市で、薬局機能を持つ岐阜薬科大（岐阜市）の「モバイルファーマシー」（災害対策医薬品供給車両）が活動し、利用者からは感謝の声が上がっている。

9日には正院小学校に停車し、避難所入り口付近に持病を抱えた高齢者やけがを負った人たちが列をつくった。持病の薬が切れたという女性（88）は「地震で薬が受け取れずどうしよう

思っていた。避難所での風邪も心配なので、その薬ももらった。頭が下がる思いです」と大事そうに受け取った。

石川県薬剤師会の要請で派遣し、7日に活動を始めた。医師1人、薬剤師3人で対応。待ち時間に薬剤師が症状やお薬手帳などを確認。連携する「ピースウィングス・ジャパン」の医師がキャンピングカーで診察し、隣の医薬品供給車で薬剤師が薬を出した。

医薬品供給車には80種ほどの薬を準備。高齢者が多い地域のため、高血圧や糖尿病の薬がよく出るほか、避難時に負ったけがの傷口がうんでいる人も多いことから、塗り薬などのニーズも高いという。

担当者は「移動できる薬局は全国でも少ない。衛生状態も良くないので、薬の供給で持病の悪化や風邪のまん延を未然に防ぎたい」と話した。（藤野華蓮）